



都繪馬鑑

壹

~~E
152
1~~

逍遙文庫
文庫6
1307
1



此馬之尾
尾毛之長
尾毛之短
尾毛之粗
尾毛之細
尾毛之直
尾毛之曲
尾毛之平
尾毛之卷
尾毛之散
尾毛之聚



執行

清水



宿坊

明應三
酉丁仲春下浣

長久河新土屋



宿坊執行

奉掛御寶前

清水

元禄拾巳卯九月吉日

奉掛御寶前



宿坊執行

乾之滿
清光白

山本傳六峯

奉掛河邊前

清水

富樫
法龍院



寛永十五六月吉日

長谷川本忠筆

三子
三子

源中らあれ執るゆよく相する會て劍法同紙と
しつて作しそのは碑をたふすの具もん障のち
黄石らよまけしと相清合はの禪の

奉掛御寶諸



清水

家坊長備光樂院

主 霧

願成就所



上 臺

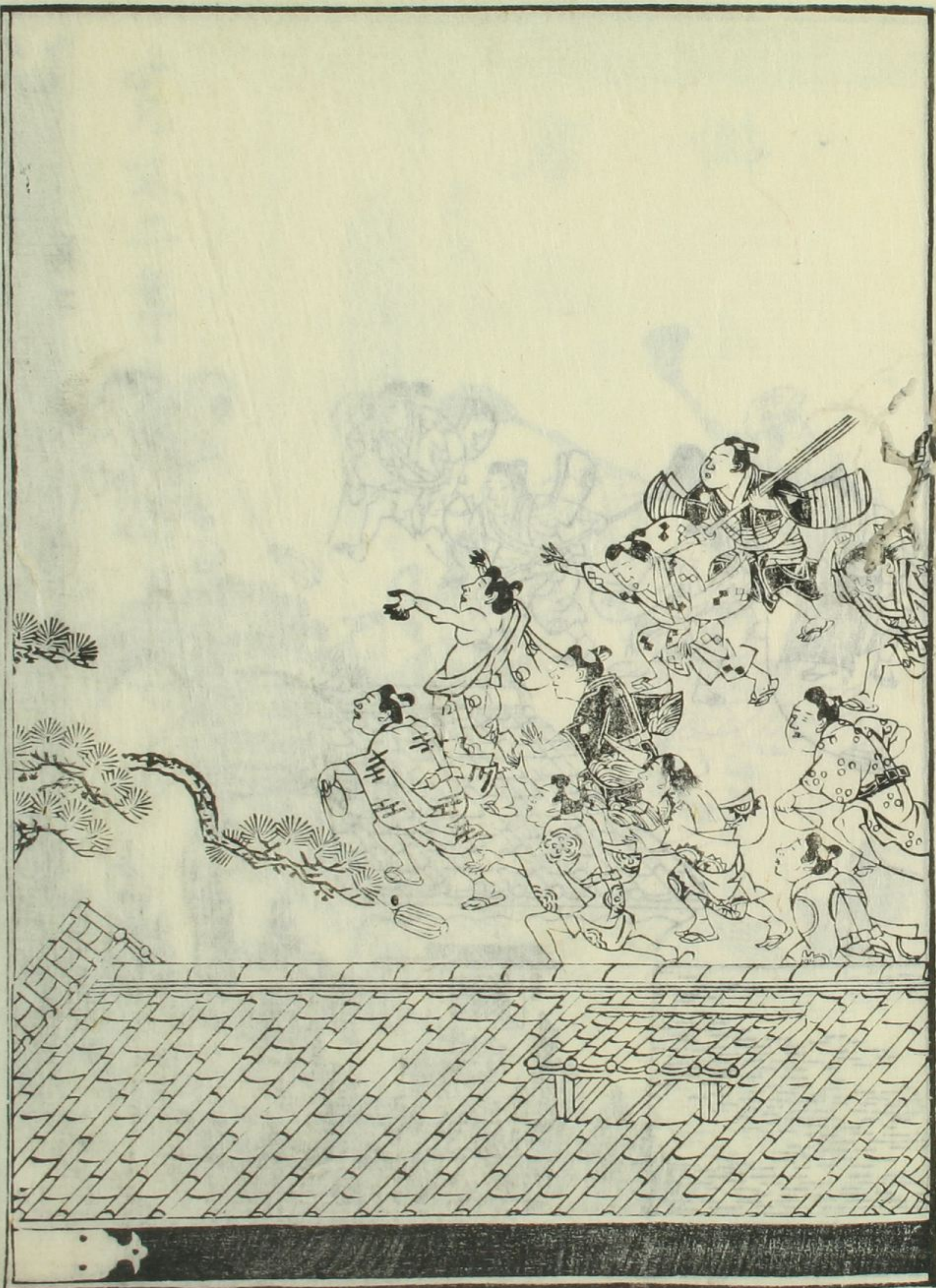
五

其二



九



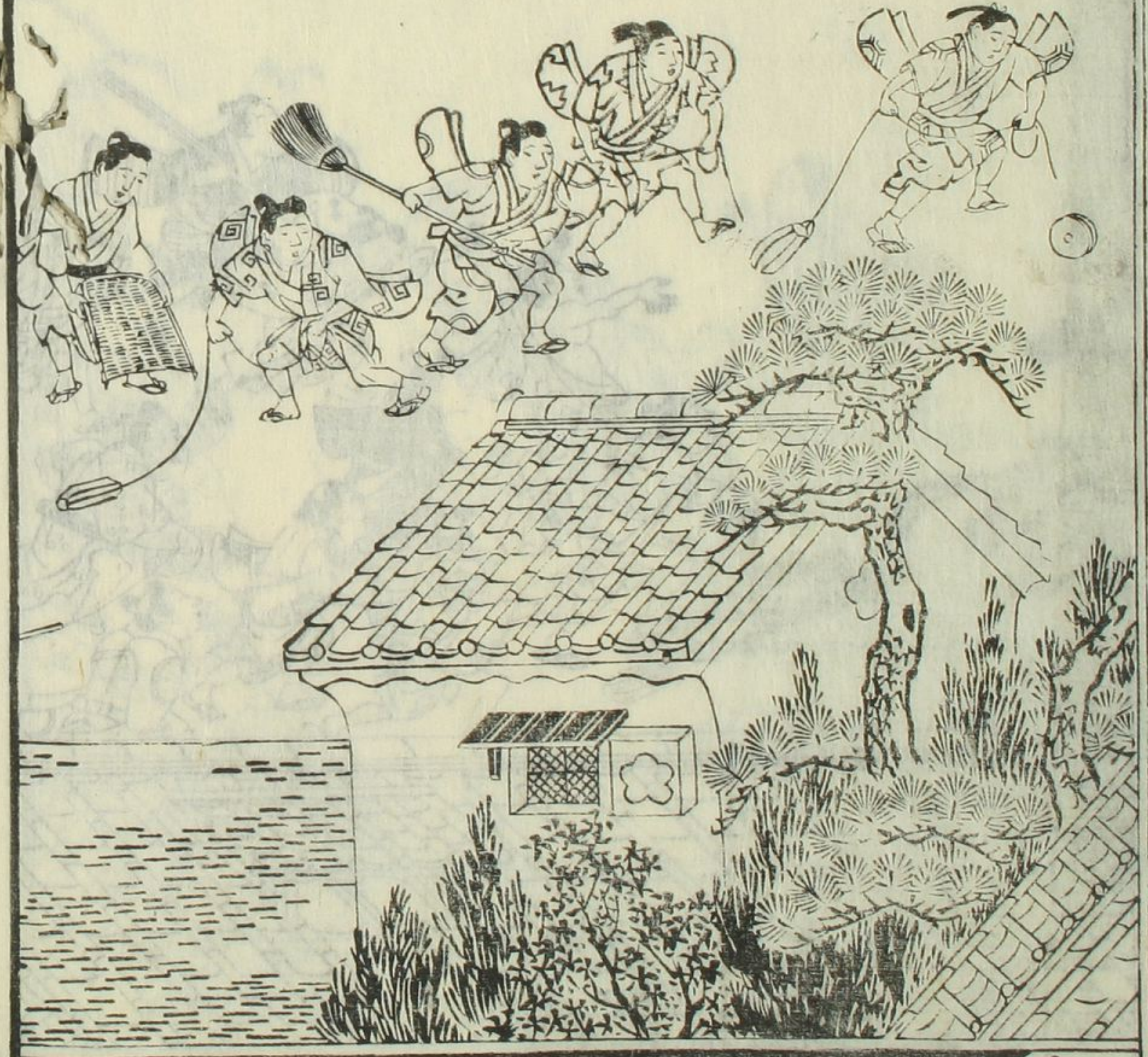


下ノ壺

寛文二年五月吉日



其二



御寶真



享保二十酉歲
二月吉日

渡邊左近筆

奉掛

清水



願主

白敬

官坊
成就

寛文二年を画より今文政二年の...
 百五十余年を隔つ...
 男女の...
 ...

御



清水

大塔の護良親王は
御の御まはりし御
十津川の辺に
御の御まはりし御
御の御まはりし御
御の御まはりし御
御の御まはりし御
御の御まはりし御
御の御まはりし御
御の御まはりし御

寶前



永
正月吉日
長谷平四郎重朝圖



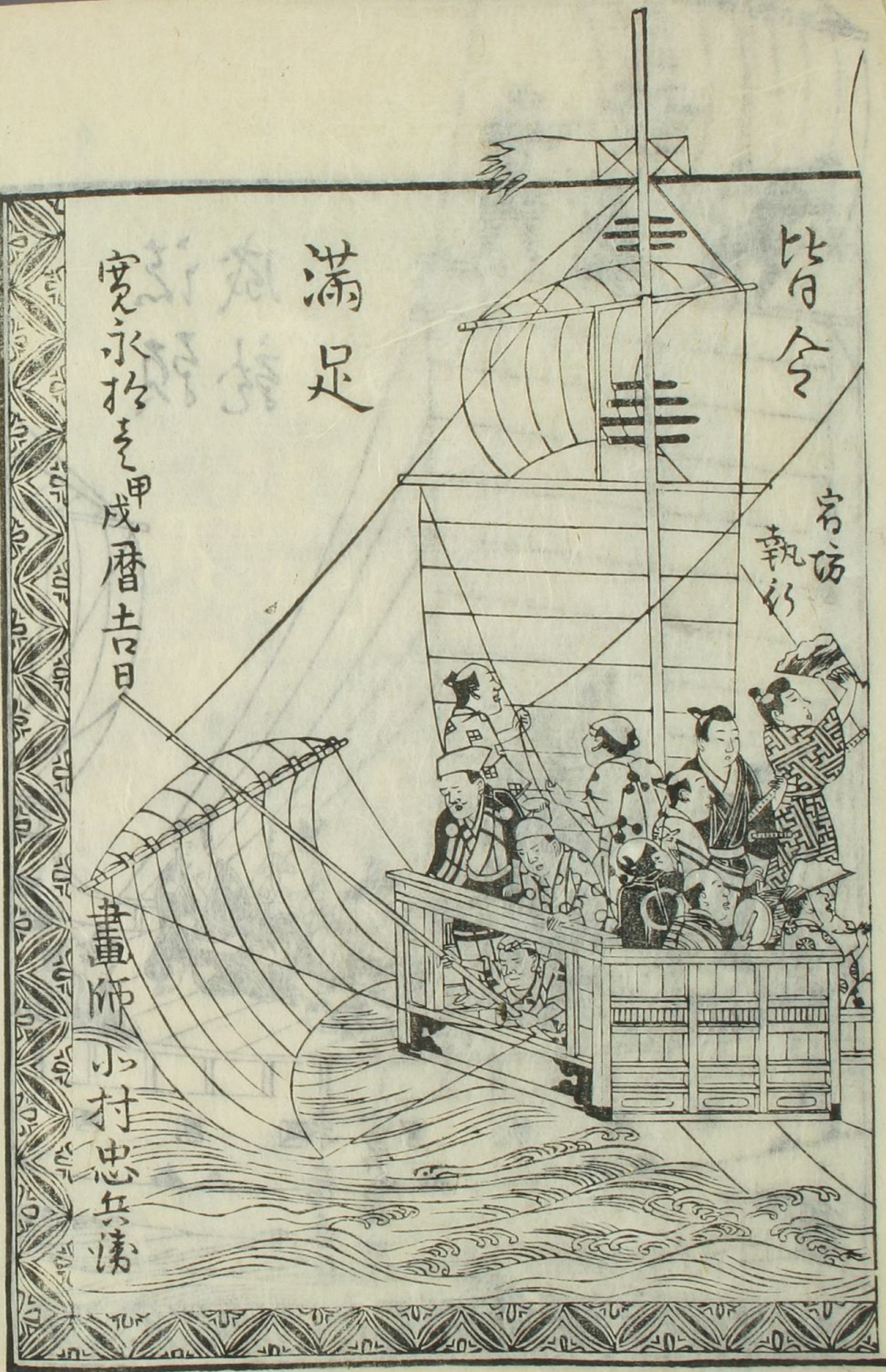
法願成就

東吉舟中



奉掛清室

清水



比目令

右坊
執事

満足

寛永拾壹年戊曆吉日

畫師 小村忠兵衛

寛永のは東京へ交易のつとに往来の船の多
 卷端從意馬心猿之圖
 到北京通商舟之圖

合川珉和縮圖

都長亭より博士気零風梳新物故といふが
 ぼく對句とあつていふ折々らるる味への新とあつて
 了らるる中又あつてあつて氷消浪洗旧若松頂と
 以ていふ佳對とあつてあつてあつてあつてあつて
 と謂ふ言はらふことなることけは後句の鬼神の句なること

享保九甲辰年五月吉日

寶前



奉掛御

祇園

望月勘助圖

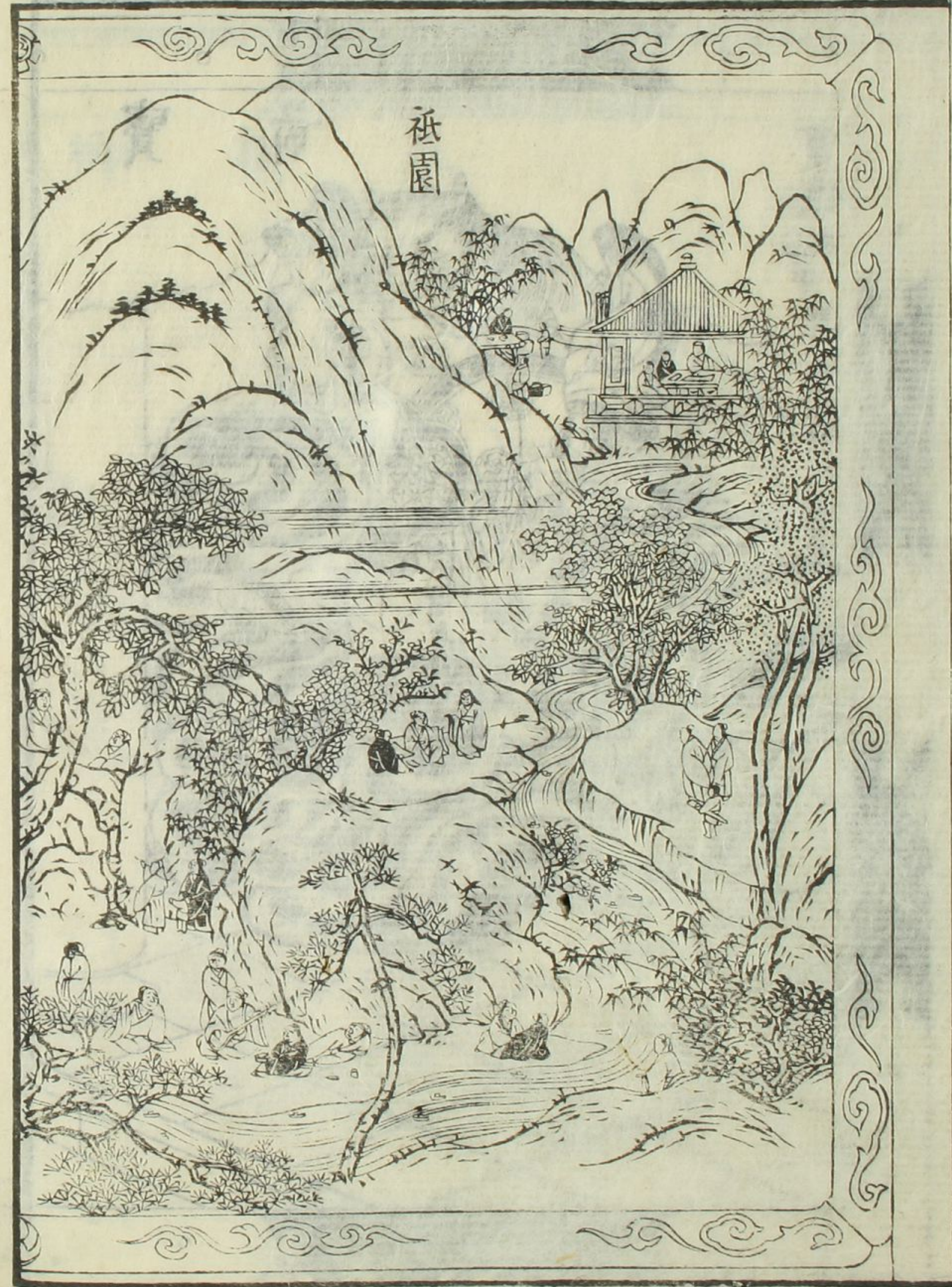


寶曆四年甲戌夏日寫於
祇園新坊



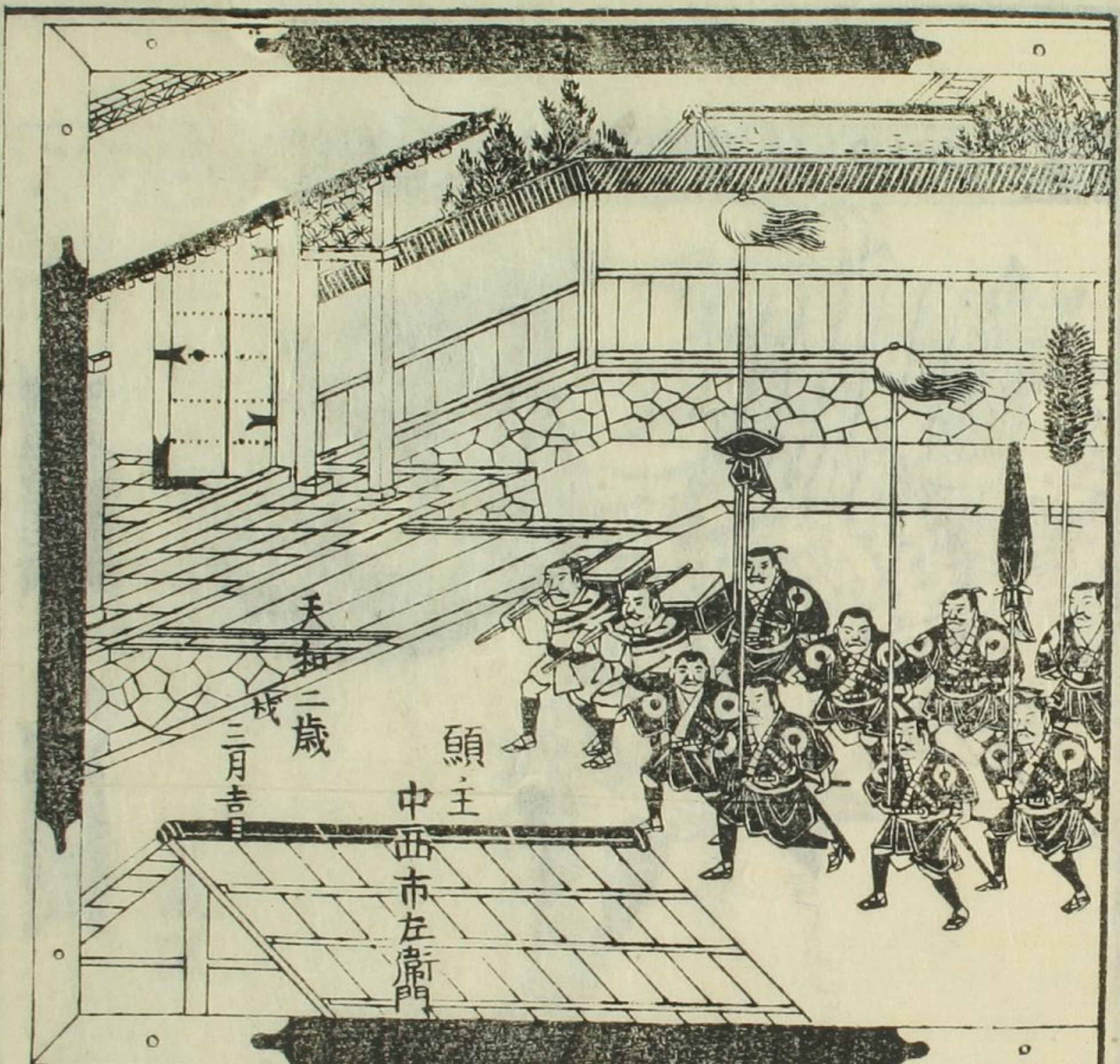
王女池書名

祇園



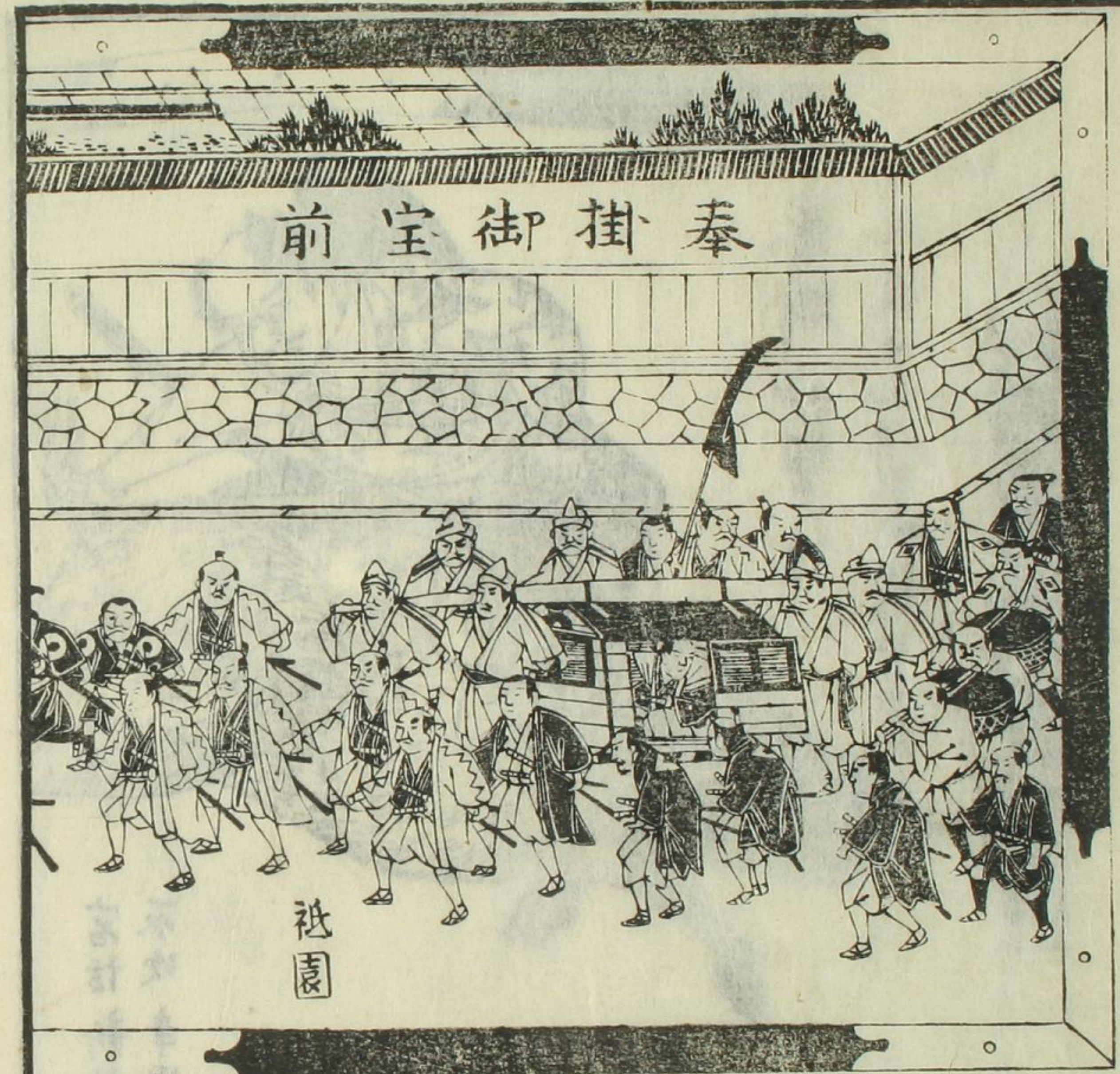


子一國...
 人...
 ...



天和二歲
二月吉日
願主
中西市左衛門

因ふり俗に浮世
又平の道雲の戲
作よちくくくく
世に在り人から
是の重蒙の為よ
ふの



奉掛御宝前

祇園

此圖湯浅亦兵衛
の筆事とありと
写しとありと
後人の鑿と待
の



祇園



梶原源大景末竹股と梅とをこりこりとし平家物語をきくぬ
 ぼらり披らるるへーあまのこころはあまのこころに探幽法師
 守信のる事之東より京よりあまのこころに探幽法師
 の重く治麻の思科近路の思とらるる感とる徳心よる
 ちあつてひら披の梅の思を知り紙をまきりしごと

寶 巖

五月吉日

袷園



井上勘兵衛筆

奉 掛 御



宿坊
寶光院

前諸願成所

寛文七丁未年九月吉日



えん心天白まヨち龜二年美濃国々々度山々酸泉涌出
とらららら改えら存て美ら山々といふもあまを
あはれ見せし人

奉掛御寶

清水



願主敬白

省坊 執行



奉掛御宝前



永仕敬白

狩野造酒助筆

諸願成就皆足

祇園

明曆二丙申正月吉日

願主
山本長九郎門



源美於六系堀川よおとほ時海合ふり付りて
 去依坊正信再びて上洛也と氏新堀并其早
 く寄付く土佐城り龍有よむくい并其より
 去依坊も引系もて堀川へつとてまじりし
 國より

享保十八癸丑年十二月十五日

宿坊
東梅坊

願主
内藤氏



奉掛御寶

祇園

狩野永隆筆



奉獻



法橋春甫画

自筆

八幡太郎義家朝臣
 子孫に伝へたる合戦
 のときも川の渡り
 身任りて多し海路
 九十九のいふ八幡
 殿のあまのついで
 へりてはたけのこ
 とのいふかたに
 一ノ宮のいふに
 二ノ宮のいふに
 三ノ宮のいふに
 四ノ宮のいふに
 五ノ宮のいふに
 六ノ宮のいふに
 七ノ宮のいふに
 八ノ宮のいふに
 九ノ宮のいふに
 十ノ宮のいふに

祇園

天明五乙巳歲
 五月吉日



宿坊
 社務執行
 寶壽院

取次
 本願

祇園

狩野縫殿助藤原永良圖



奉獻

寶曆十二年歲次壬午季夏仲藩



宿坊
松坊

三子の中にお出な後を
九重城外を洞壺院

唐の玄宗楊氏の女を中より入る偶甚
しく貴妃の位を擡げしは宮三子の一人を
あつらひて霓裳羽衣曲を造り舞樂を奏
し之を揚そ妃と名し又飲茶杯を造り之を

縮圖画匠

合川 珉和
北川 替成



都繪馬鑑一之卷終

川端

藤三郎

